

注意！

本装置の USW、DSW、UMT、DMT配線の結線場所を間違えると装置破損、車両故障する可能性があります。必ずテスターを用いて、取り付け手順に従った手順で取り付けを行ってください。

よくある動作障害例と確認方法(ミラー下降装置)

障害例： 装着後、ミラーが下降しない。
障害例： 作動したり、しなかったり不安定。

確認1. 各配線の接触不良がないか再度ご確認ください。
特にエレクトロタップで結線している配線は接触不良となる場合が多いのでご注意ください。
※作動しない原因の9割以上が配線の接触不良です。

確認2. 設定変更用スイッチが オフ位置 となっていることをご確認ください。
| 刻印がある方がオン位置になりますので、 ●印の方にスイッチを設定してください。

確認3. ボディーアース線(黒)をドア金属部に接続していないかご確認ください。
ドア金属部はアースされていませので、適切なバッテリーマイナス線または、ドア以外の車体金属部に接続してください。

確認4. 装着時に周辺コネクタを外した場合、コネクタの半挿入が無いかご確認ください。

確認5. DSWとDMT配線、 USWとUMT配線が逆になっていないかご確認ください。
逆に接続されていた場合、すでに装置パターンが焼損している可能性があります。
装置内部から焦げ臭いにおいが確認されたら当方まで連絡をお願いします。 修理が可能です。
※修理の場合、当方までの返送料と修理代金 ¥ 1000が必要です。

障害例： 装着当初は正常動作していたが、最近たまに動かないときがある。

確認1. 各配線の接触不良がないか再度ご確認ください。
特にエレクトロタップで結線している配線は時間がたつとともに、接触表面が酸化して接触不良となる可能性があります。
ギボシ端子等を使用して確実に接続してください。

障害例： 下降、上昇の移動角度が大きくズレていて、明らかに動作が異常。

確認1. 装着時に移動時間の設定値が狂った可能性があります。装置のリセットを行ってください。

確認2. ミラー動作時の電氣的ノイズの影響を受けている可能性があります。
常時電源、ボディーアースの接続場所を別な位置に変更してお試しください。
また、設定変更スイッチの配線引き回しも変更してお試しください。

障害例： 装着当初は下降後にもとの位置に戻っていたが、最近少しずつズレる様になった。

確認1. ドアミラーの下降・上昇時のメカ負荷バランスが変化した可能性があります。
ドアミラー角度調整用モータは、ポジションセンサーが無いため、モータへの通電時間による制御のみで位置調整を行う必要があります。
従い、ミラーのメカ負荷が変わった場合、移動速度も変わってきますので、通電時間を調整する必要があります。
"位置ズレ自動補正機能"で調整を行ってください。
大きなズレではない場合は、気になるくらいにズレたときに、車両側の角度調整スイッチで都度 位置調整した方が楽な場合もあります。

障害例： 車両側の角度調整スイッチが利かない。

確認1. 車両側のヒューズが切れた可能性があります(各配線の接触不良が無い前提)。
車両整備マニュアルを参照して関連するヒューズをご確認ください。ヒューズが切れていた場合、装置の結線場所に間違いがあると思われます。
結線場所をご確認ください。 また、装置自体も損傷している可能性があります。 再結線後も動作異常となる場合は相談願います。